

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名		設置認可年月日		校 長 名		所 在 地		
中央情報専門学校		昭和62年1月30日		岡本 比呂志		〒352-0001 埼玉県新座市東北2-33-10 (電話) 048-474-6651		
設 置 者 名		設立認可年月日		代 表 者 名		所 在 地		
学校法人 中央情報学園		昭和62年2月4日		理事長 岡本 比呂志		〒352-0001 埼玉県新座市東北2-33-10 (電話) 048-474-6651		
目 的		IT業界およびITを活用する産業界と連携し、産業界の要望・人材ニーズを反映させた職業実践的かつ専門的な教育課程により、最新のかつ高度なIT知識・技術を身に着けたIT技術者を育成する。						
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与		
工業	専門課程	IT・Web学科	2年（昼）	1728単位時間 (96単位)	平成25年文部科学省 大臣告示第3号	—		
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技		
		42単位	18単位	—	36単位	—		
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数		総教員数
140人		126人		6人		3人		9人
学期制度		■前期：4月1日から9月30日 ■後期：10月1日から翌年3月31日			成績評価	■成績表（有） ■成績評価の基準・方法について 出席率および平常点、期末試験で 秀、優、良、可、不可の5段階評価		
長期休み		■学年始め：4月1日から4月8日 ■夏 季：8月1日から8月31日 ■冬 季：12月21日から1月7日 ■学 年 末：3月21日から3月31日			卒業・進級条件	■出席率 80%以上 ■成績 全単位の80%以上 進級条件 39単位以上取得 卒業条件 78単位以上取得		
生徒指導		■クラス担任制（有） ■長期欠席者への指導等の対応 担任教員の個別訪問、電話、メール等で親身に問題解決を行う			課外活動	■課外活動の種類 文化祭、埼情協ホームページコンテストへの参加 ■サークル活動（無）		
就職等の状況		■主な就職先、業界等 情報産業、サービス産業、製造業 ■就職率※ ¹ 83% ■卒業者に占める就職者の割合※ ² 63% (平成26年度卒業者に関する平成27年4月時点の情報)			主な資格・検定	基本情報技術者試験、J検、CCNA、LPIC、日本語能力検定など		

中途退学の現状	<p>■中途退学者 10名 ■中退率 8%</p> <p>平成26年5月1日在学者 122名（平成 26年4月入学者を含む） 平成27年3月31日在学者 112名（平成 27年3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 就職、経済的理由のため</p> <p>■中退防止のための取組 担任および校長補佐が面談し、教職員全体で親身になって生活相談にのる。</p>
ホームページ	URL: http://www.ccmc.ac.jp

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

（教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針）

本校の教育課程編成においては、（公社）埼玉県情報サービス産業協会との連携のもと、企業等で必要とされる人物像、人材要件を明確にし、また、情報サービス産業の動向や今後の方向性を見極めながら、2年間のカリキュラム編成を行う。本校教務会議規程に従って、教育課程編成委員会は、学校自己点検・自己評価の状況、その他学校が提供する情報、カリキュラムの実施状況など総合的に検討し、（公社）埼玉県情報サービス産業協会会員企業へのアンケート調査・ヒヤリング等を行うなど産業界の動向や産業界で必要とされる人材ニーズを見極めて、当該年度の教育課程の改善と次年度の教育課程編成の理念および基本方針を策定する。教務会議では、その基本方針と改善提案のもと、今年度の教育課程の改善と次年度以降のカリキュラム編成を具体化させることにより、情報サービス産業における実務に関する知識、技術及び技能を教授し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目指す。

（教育課程編成委員会等の全委員の名簿）

平成27年4月1日現在

名 前	所 属
岡本比呂志	学校法人 中央情報学園 理事長 中央情報専門学校 校長
岩 寄 正	公益社団法人 埼玉県情報サービス産業協会 副会長 ティーエスサービス株式会社 代表取締役
西村 俊郎	オフィス・プレクス代表 NECビッグロブ株式会社 元執行役員常務
増古 恒夫	パシフィックシステム株式会社相談役 元代表取締役、AGS株式会社取締役 公益社団法人 埼玉県情報サービス産業協会 元副会長
岩田 俊裕	中央情報専門学校 副校長
桑原 幸夫	中央情報専門学校 副校長
松本 彰仁	学校法人中央情報学園 事務部長
堀切 達也	学校法人中央情報学園 主幹
小菅 厚	学校法人中央情報学園 学園システム主査
槌谷 晶	中央情報専門学校 校長補佐
山本 三雄	中央情報専門学校 非常勤講師 情報処理学会会員／日本教育工学会会員／東京大学大学院総合文化研究科広域システム科学系博士後期課程単位取得

（開催日時）

平成26年度第2回 平成27年3月23日（月） 14:00～16:00

平成27年度第1回 平成27年7月31日（月） 14:00～16:00

2. 主な実習・演習等

（実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針）

IT業界およびITを活用する産業界のニーズに合った実践的かつ専門的な教育課程を行うために、カリキュラム・シラバスの作成、授業方法・実習の提案、講師派遣、教員研修、学生評価について協定書（業務委託契約）を受託企業と締結し実施する。実施にあたっては、教務会議のもと、受託企業との定期的な報告会議をもち、進捗の管理と課題解決の体制をとる。担当科目には専任教員を配置し、授業内容の評価、改善を逐次行うとともに、担当科目の専任教員は、企業等との連携による研修による専攻分野における実務の技能向上を図る。学生評価は、企業による評価を受けて、担当科目の専任教員が行う。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
コンピュータプログラミングⅠ	Java およびそのフレームワークを使って、Web システム開発を行うプログラミング基礎実習	ホープ株式会社

コンピュータプログラムⅡ	Java およびそのフレームワークを使って、Web システム開発を行うプログラミング応用実習	ホープ株式会社
Web システム設計・開発演習	Web システムの企画、設計、開発、テスト、運用という一貫した開発過程を演習する	ホープ株式会社
インターネットシステム運用・管理	クラウドサーバで主に利用されている Linux サーバの管理者として必要な知識、実践的な運用・管理技術を演習によりマスターする。	株式会社イーシティ埼玉 (埼情協会員)

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

教員に対する研修は、①IT分野等における実務に関する研修、②授業方法・生徒指導など教員の資質向上に関する研修、③学校評価・マネジメントなど学校運営に関する研修と3分類し、教員評価にもとづき、必要な研修を各教員に計画的に実施する。

IT分野に関する研修においては、提携企業等から講師を招き、IT分野にかかわる教員が参加する研修を実施する。

教務会議は、上記方針のもと、教員に対する研修の年間計画を策定し、外部の研修に参加する教員をサポートし、その研修内容を参加した教員の校内報告会などで他の教員と共有し、教員の資質向上に向けて、組織的、計画的に実施する。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成27年4月1日現在

名 前	所 属
岡本比呂志	学校法人 中央情報学園 理事長 中央情報専門学校 校長
岩 寄 正	公益社団法人 埼玉県情報サービス産業協会 相談役 ディーエスサービス株式会社 代表取締役
西村 俊郎	オフィス・プレクス代表 NECビッグロブ株式会社 元執行役員常務
増古 恒夫	公益社団法人日本技術士会埼玉県支部幹事 教育推進・CPD委員会副委員長、 AGS株式会社取締役、パシフィックシステム株式会社 元代表取締役、 公益社団法人 埼玉県情報サービス産業協会 元副会長
倉橋 政道	公益財団法人 日本教育公務員弘済会 埼玉支部長 元埼玉県立浦和高等学校長

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.ccmc.ac.jp/>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.ccmc.ac.jp/>

授業科目等の概要

(工業専門課程情報システム学科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			IT リテラシーⅠ	情報化に主体的に対応するための基礎的な知識とクライアント環境のパソコンの操作・利用と役割・機能、および情報の利用、情報モラルなどに関わる基礎知識を習得する。	1通	72	4	○		
○			IT リテラシーⅡ	情報化の進展にともない、日常生活において主体的に対応できる基礎的能力とソフトウェアの種類と機能、インターネット、および情報セキュリティなどの基礎知識を習得する。	2通	72	4	○		
○			コンピュータシステム概論	Linux サーバ管理者となれるよう、LPIC レベル1の学習を通して体系的に知識と技術を習得するとともに、IT 業界で評価の高いLPIC レベル1の資格取得を目指す。	1前	36	2	○		
○			システムの開発と運用	主に Web システム開発における最新の技術による実践的かつ専門的な知識を習得する。システムの開発局面で利用する言語、ツール類を用いて、開発手法を具体的に実践する。	1前	36	2	○		
○			データベース技術Ⅰ	データベースの概念、実世界のデータをコンピュータの中に取り扱うためのデータモデルと DBMS の機能を学習し、SQL による DB 定義、DB 操作を学習する。	1前	36	2			○
○			データベース技術Ⅱ	Web サイトのバックグラウンドで稼働する MySQL による DB 上で、エンティティを設計し、各エンティティのリレーションシップの設定し、API による呼び出しなどによる DB 活用を学習する。	2後	36	2			○
○			リスク管理	企業にかかわるリスクおよびその管理問題について、基礎知識、その考え方、事例、最新動向、先進国のリスクマネジメントの捉え方、企業の内部統制との関連等を具体的に紹介する。	1後	36	2	○		
○			クラウドコンピューティング入門	クラウドコンピューティングがどのような仕組みであるかを理解する。実際のクラウド環境を利用し、その利点や欠点、今後の課題についてワークグループ形式で学習する。	1後	36	2	○		
○			情報化と経営	IT により問題解決を行うための企画、分析、設計などの技術を実践的に学ぶ。SWOT 分析、ビジネス企画と業務モデリングの基礎と応用を学ぶ。	1前	36	2	○		

網掛けは企業等との連携する科目です。

授業科目等の概要

(工業専門課程情報システム学科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技
○			コンピュータプログラムⅠ	Java のプログラムの基本構成、入り口、基本形、参照形、プログラムの流れ、クラス、オブジェクトの仕組み等を理解の上で、簡単なプログラムを自分で書けるようにする。	1 前	72	4			○
○			コンピュータプログラムⅡ	J2EE の基準、spring のフレームワークの構成 (MVC AOP, DI JDBC、ORM) 等の技術の基本を身につけ、自分で調べながら、Web アプリケーションを制作出来るようになる。	2 前	72	4			○
○			データベースシステム設計・開発演習	「目的を達成するために、いくつかの構成要素が連携する仕組み」がシステムであり、一般的なシステム設計手順を経ながら「システムをデザインする」ことの意味と技法を学ぶ。	1 後	108	6		○	
○			Web システム設計・開発演習	Web サイト構築において、視覚面での効果とユーザビリティを意識したプランニングが重要である。基本ツールの操作を習得しながら、実践的な素材作りを体験する。	2 通	144	8		○	
○			基本ソフトウェアⅠ	基本情報技術者試験の合格を目指し、前期では、教科書を中心に基礎事項の解説を行い、後期では、基礎事項の理解を基に「実践的な実力」を養成する。	1 通	108	6			○
○			基本ソフトウェアⅡ	基本情報技術者試験の合格を目指し、前期では、教科書を中心に基礎事項の解説を行い、後期では、基礎事項の理解を基に「実践的な実力」を養成する。	2 通	108	6			○
○			インターネットシステム運用・管理	LPIC レベル1 の学習を通して体系的に知識と技術を習得するとともに、Linux サーバ管理者として必要な運用・管理技術をマスターする。	2 通	108	6			○
○			ネットワークセキュリティ	ネットワークエンジニアとしての必須資格の CCNA 資格の学習を通して、とりわけセキュリティ・インシデントに対する対応方法など具体的事例に即して学習する。	2 通	108	6	○		
○			ビジネスアプリケーション	Excel の基本的な機能を効率よく利用して、関数やデータ収集を用いた分析作業を行うことを目標に、簡単なデータ整理、統計処理、グラフ化およびデータベース機能を身に付ける。	1 通	72	4			○
網掛けは企業等との連携する科目です。										

授業科目等の概要

(工業専門課程情報システム学科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技
○			プレゼンテーション技術	自分のアイディアや成果、考察、意見などをスライドに表現できること、そして他者の前で説明することができること、更に、質問やコメントに適切に受け答えできることを目指す。	1 前	36	2			○
○			コミュニケーション技術	社会およびビジネスの現場でのコミュニケーションについて、重要性や必要性、様々なコミュニケーション方法を演習を中心とした授業の中で習得・理解していく。	1 後	36	2	○		
○			日本語表現法	書かれている内容を的確に読む力および、まとめる力を養う。そして、実際に書き、それを修正するという学習を繰り返すことで、「書く力」を体得していく。	1 前	36	2	○		
○			ビジネスマナーⅠ	理論的に必要な知識を理解し、ロールプレイングを交えながら、声を出して、立ち居振る舞いなど体で身につけたビジネスマナーをサービスを提供するという観点から学習します。	1 前	36	2	○		
○			ビジネスマナーⅡ	企業実務として必要な組織機能を習得し、ビジネス上の対人関係力を身につけ、事務処理に必要な情報収集・ビジネス文書作成力・事務機器や会議などの知識を磨きます。	2 後	36	2	○		
○			著作権・標準化	著作権の意味を正しく理解して知的財産の創造を促進し、標準化により、その有効かつ適切な活用を図る社会の発展と文化創造に資するための仕組みを、事例、関連法規から学びます。	2 後	36	2	○		
○			最新技術の動向	ビジネスにとって Web サイトは必須の戦略ツールであり、インターネットを中心とした様々な技術の進歩に伴う、ハード、ソフト、利用方法などの最新の技術を事例分析と演習により身に付ける。	2 前	36	2		○	
○			最新ビジネスの動向	ビジネス成功に直結する Web サイトは、何よりも顧客視点に立脚した「コンテンツサイド」での知識と実践技術が必要となる。教科書の学習と事例分析を並行させながら、演習を行う。	2 前	36	2		○	
○			基礎数学	ビジネスシチュエーションの中で特に必要とされる数理的な考え方を、5つのキーワード「把握力」「分析力」「選択力」「予測力」「表現力」における数学の利用方法を学ぶ。	1 後	36	2	○		

網掛けは企業等との連携する科目です。

授業科目等の概要

(工業専門課程情報システム学科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・実 習・実 技
○			会計基礎	財務諸表を正確に読み解き、分析する能力を育成し、ビジネスシーンにおいて、企業情報の活用と企業の健全な発展に資する人材の育成を目指す。	1 後	36	2	○		
○			キャリア教育	社会へ巣立つにあたり必要と成る社会や会社の仕組みに関する基礎事項を学習し、自らのキャリアを自分自身の言葉で考え説明することができる学生を目標としている。	2 通	72	4	○		
合計					29科目	1, 728単位時間 (96単位)				

網掛けは企業等との連携する科目です。